

# 豊中市における女性の就労に関する調査研究Ⅰ 要約

## 1. 調査研究の背景・目的

女性の場合、正規雇用で働いていても、結婚や出産を機に退職することが多く、その後、正規雇用で働き続けることができない背景には、家庭と仕事の両立の難しさがあるとされている。また、学校卒業後に初めて得た正規雇用の職を「結婚・出産・子育て」以外の理由で辞める女性も多い。もし彼女たちが初職で働いていた労働環境がよくなかったことを理由に退職していたとしたら、そのまま国が「仕事と子育ての両立」を推進したとしても、働く側の女性は正規雇用を選択せずに、非正規雇用もしくは家事専業という選択をするかもしれない。

このように女性の就労には様々な課題がある。このような課題とその背後にある原因を明らかにするために本研究では、豊中市に住む30歳-59歳までの女性に対してアンケート調査を行い、この結果をもとに、30歳-59歳の女性が自らの働き方をどのように認識し、ワーク・ライフ・バランスの実現のためにどのような働き方を望んでいるかについて考えていく。

## 2. 問い

調査研究を進めるうえで、以下の4つの問いを設定する。

- ① どのような理由で女性は仕事を辞めるのか
- ② 配偶者・パートナーの収入が少ないにもかかわらず、なぜ家事専業・無職のままなのか
- ③ 初職から非正規だった女性はその後どのような職業経路をたどるのか
- ④ 就労していない女性はどのようなリスクがあるのか

## 3. 調査方法

- ・ 豊中市在住の30-59歳の女性6,000人に対して、アンケート調査票を郵送し、回答を得た。回収数は2,651票(回収率44.7%)であった。
- ・ アンケート内容は年齢や配偶者の有無、学歴といった本人の属性から、パートナーの属性、仕事の状況、理想的な働き方などについても尋ねた。

#### 4. 主な結果

それぞれの問いについての主な結果は以下の通りである。

① どのような理由で女性は仕事を辞めるのか

→30歳代、40歳代は仕事に関する理由で退職、50歳代は家庭の事情で初職を退職。

育児休業を取得せずに仕事を辞めた女性は「子育て」を理由に退職。

	結婚	子ども ができた	子育て	病気・ ケガ	介護	夫の転 勤	会社の 人間関係
30歳代 (n=844)	111	58	14	22	5	31	42
40歳代 (n=984)	215	59	23	25	6	33	48
50歳代 (n=812)	273	74	13	23	14	12	34

	会社の 倒産等	仕事が 合わない	労働条 件があ わない	いい職 場が見 つかつ た	他の仕 事がし たい	スキル アップ	保育所 がだめ だった
30歳代 (n=844)	29	60	63	50	59	53	1
40歳代 (n=984)	43	71	51	35	98	70	1
50歳代 (n=812)	17	32	25	28	85	42	0

② 配偶者・パートナーの収入が少ないにもかかわらず、なぜ家事専業・無職のままなのか

→就労意欲は高いが、「育児・介護」を理由に家事専業・無職を選択・

③ 初職から非正規だった女性はその後どのような職業経路をたどるのか

→初職が非正規雇用だった女性は、本人がキャリアアップを望んでも初職を退職しても非正規雇用であるケースが多い。

④ 就労していない女性はどのようなリスクがあるのか

→全般的に、離職歴が長い、もしくは非正規雇用歴が長いと収入が低くなる傾向にある。そのため、配偶者・パートナーと離婚・死別をすると経済的リスクが高くなる。

アンケートの回答者のうち、そのような女性は低収入で母子家庭が半数以上を占めていた。

#### 5. 結論(求められる公共政策)

①就労を希望する女性に対する適切な情報の提供と支援

②子育てが落ちついてからの就労支援だけでなく、仕事に躓いた女性に対する就労支援

③資格の取得を促す